

# 大都市圏化を指向するパリ

明治大学大学院教授 青山 侑

東京23区程度の規模のグラン・パリ

先般、日仏会館フランス事務所からの申し入れがあり「グラン・パリとグラン・東京、コンセプトから具体化へ…日仏の視点」というテーマで元パリ市副市長ピエール・マンサ氏（パリ市）とトークを行った。

グラン・パリというのは、パリ市を中心にパリ大都市圏で基礎自治体の連合をつくり、そこに議会を設置し、一定の財政権も持たせるなど法的な自治権を付与し、パリ大都市圏の発展を図ろうというものである。

東京都は元々、都市計画や長期計画を策定するときに、東京都の行政区域だけで議論するのではなく、関東平野、1都3県（東京、神奈川、埼玉、千葉）、あるいはより実質的

に直径約100kmの圏央道の範囲で考えるのが通例となっていて、グラン・東京を実践している。

世界の大都市といえば東京、ニューヨーク、ロンドンの3都市が代表だ。2004年に策定されたロンドンの長期計画であるロンドンプランもこの3都市を世界都市と表現している。

パリ大都市圏の自治体はメトロポール・デュー・グラン・パリ (Metropole du Grand Paris 略称: MGP) と名付けられた。MGPはパリ市と、オーード・セーヌ県、セーヌ＝サン＝ドニ県、ヴァール＝ド＝マルヌ県というパリ市を取り囲む3県の全コミューン及びさらにその外側の9コミューンを含む、131のコミューンから構成されると決定されたのが2015年、実際に発足したのは2016年

1月である。

なお、ここでいうコミューンは基礎自治体である。小さなコミューンが存続している理由については山下茂著『体系比較地方自治』（ぎょうせい、2010）40頁の、教会と関連させた説明が興味深い。

MGPの2014年時点の人口は約700万人、面積は800km<sup>2</sup>余、庁舎はパリに置かれている。東京23区の人口・面積と似たような規模である。区議会を構成するのは、メトロポール加盟各コミューンの議会によって選出された209人の議員たちである。パリ市長アンヌ・イダルゴは第一副議長になった。

グラン・パリ構想自体はもともと、サルコジ大統領時代の2010年に制度化されていた。パリ市周辺地域を含む大都市圏域において公共交通ネットワークの整備や年間7万户という住宅の大量建設、域内に10か所の経済・科学拠点をつくる、などの内容だった。

サルコジを破ったオランド大統領の下でもこの計画は修正されながらも継承され、パリ都心部と郊外を結ぶ地下鉄ネットワークが計画され、2030年までに延長200km、72の駅が新設されることになっている。

## ラ・デファンスはビルを3000 級に更新中

シャンゼリゼを挟んでエトワールの凱旋門と対峙する新凱旋門(グランド・アルシュ)は、パリ市内ではなく、パリ市西隣の前記オー＝ド＝セーヌ県に属する。

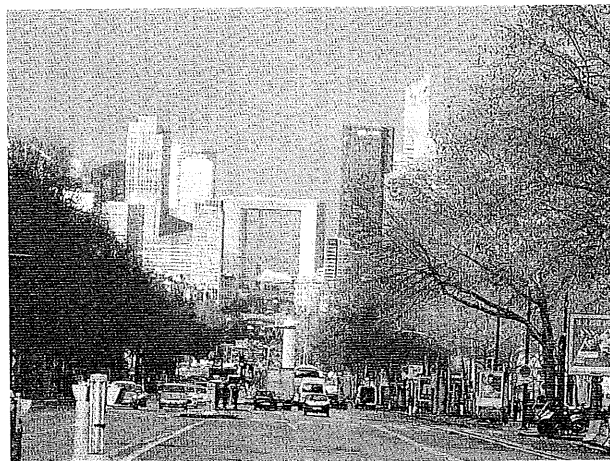
パリの歴史的な街並みを守りながら経済機能を確保するため、近郊に近代的なビジネス街をつくろうとする敷地750haのラ・デファンス(エトワールの凱旋門から4.5km)の計画が始まったのは1958年のことである。当時のラ・デファンス地区には自動車工場などいくつかの工場はあるものの低未利用地が多かった。

高さ110mのグランド・アルシュ(大きな方舟。新凱旋門ともいう。)の建設などラ・デファンス計画のほぼ完成をアピールしてジャン・ミッシェル・ジャールによる音楽と光の一大イベントを開催したのが1990年、建設が一区切りとされたのは1992年だった。

このころ東京都はオフィスビルを中心とする臨海副都心の建設を構想したが、1995年、青島都政の誕生などにより、計画が修正されて、必ずしもオフィス中心ではなくアミューズメント、商業、スポーツ、住宅など

多様な機能をもったまちづくりへと変わっていくことになった。

ラ・デファンスには大小100棟以上、うち40棟以上の高層ビルが建ち並び、約10万人(ひところは6万人の計画だった)が働き、約2万人が住んでいる。ラ・デファンスをパリのマンハッタンと呼ぶ人もいるが、それは違う。マンハッタンと違い、一つ一つのビルがデザイン性に富んでいて、まるで建築博物館の様相を呈しているのがラ・デファンスだ。



シャンゼリゼから見たラ・デファンス

ド・アルシュに至り、ラ・デファンス地区内でもその軸線は変わらず、セーヌ川に至るという東西大軸線確保の都市設計思想は貫かれた。初期に建設されたCNIT(国立工業技術センター)は既に一度、改修されている。2004年のロンドンプランは、ロンドン、ニューヨーク、東京を世界都市と位置付けているが、実はパリも、観光だけではなく原子力、水など世界的な経済活動において無視できない存在である。国営民間企業ともいえるべき独特のビジネス・スタイルでフランスは世界経済において一定の位置を占めている。ラ・デファンスのオフィスビル群がその証左の一つである。

ラ・デファンスは、フランス流の国営民間企業ともいえるべき公社がマネジメントしているが、順次、ビルを建て替えている。今後のビルは原則として300mから320m級の超高層とする計画で、現に新築若しくは工事中のビルは、ノーマン・フォスター設計によるエルミタージュ・ブラザなど4本とも300m超である。30年ほど前に建てられたオーロラは50階建てだが、取り壊された。

私たちは、パリは観光が中心、と思って油断しないほうがいい。フランス流国営民間企業方式という独自のビジネス・モデルで躍進を図っている。特にイギリスのEU離脱をに

らんでフランスのグローバル・ビジネスや国際金融機能への志向は強まっている。グラン・パリ計画はこれらの延長線上にある。

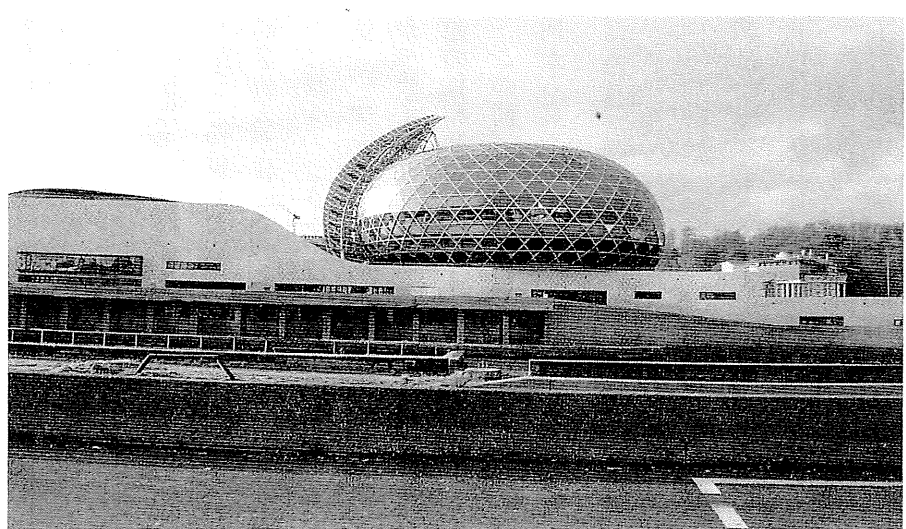
### グラン・パリと坂茂のラ・セーヌ・ミュージカル

パリのセーヌに浮かぶセガン島といえは日本の誇る建築家、坂茂によるラ・セーヌ・ミュージカルが建てられたことで知られている。パリ市内からメトロの9号線に乗って20分ほど行き、ボン・デ・セーブル駅で降りて地上に出るとすぐにセーヌの中洲に浮かんだ音楽施設が見える。ドーム型の建物の屋根に、帆の形をして太陽光に向かって徐々に動いていく高さ45mの巨大な発電パネルが目立つ。エコ・カルティエと呼ばれる所以である。

6000人を収容する大きな多目的ホールと1150席のクラシック音楽向けホール、リハーサル室、音楽学校、屋外庭園などが併設されている。地下1階・地上9階建て、延べ床面積3万6500㎡。2017年4月のオープニングに当たってはボブ・ディランのコンサートが開かれた。ホール入口の横には洒落たレストランがコンサートのない日も開いている。

このセガン島は、ブローニュ・ビヤンクル市に属している。この市はラ・デファンス

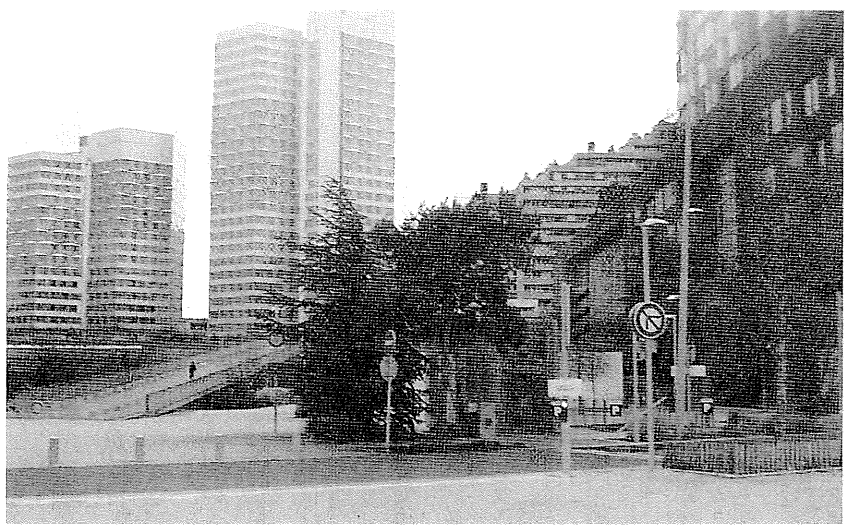
と同じくオー・ド・セーヌ県に属し、パリ市の西隣にある。パリ市西隣という地の利もあって、全仏テニスのローラン・ギャロスのコートや各種美術館・博物館もある。パリ近郊の都市としては最も人口が多く10万人を超えている。1926年に現在の名称となるまではブローニュ・シュル・セーヌ(Boulogne sur Seine)と呼ばれていた。この市には日



坂茂設計によるラ・セーヌ・ミュージカル

本人が多く住み、日系幼稚園もある。パリ市側ではブローニュの森に接し、セーヌ川が通り、高級住宅地とされている。瀟洒な中高層マンションが多く建ち並び、立体的なデッキ等で連絡されている。1階レベルにはレストランや商店が配置されている。

セガン島はルノーの工場だったが、第二次世界大戦中、フランスはドイツに降伏してドイツの占領下にあつたため、ルノーの工場は



ラ・セーヌ・ミュージカル周辺の街並